

第26回国民文化祭京都市実行委員会設立趣旨

京都は、1200年を超える悠久の歴史の中で、多様な文化芸術を重層的に蓄積し、また、それらを守るだけでなく、絶えず新しく生み出すための創意と工夫を続けている他に類を見ない都市です。

日本の文化のふるさとともいふべき京都において、第26回国民文化祭が開催されるに当たり、京都市には京都の持つ豊富な文化資源に触れる機会を設け、一流の所作や演技だけでなく、ひと、場所、ものすべてにわたり、日本文化の神髄を披露し、その魅力を国内外に広く発信することが期待されています。

また、新しい文化の創造を促すとともに、市民の文化芸術への参加意欲とその水準を更に高め、京都の文化を次代に継承し発展させる大きな契機とすることが求められるところです。

このような目的を達成するためには、全市を挙げて事業に取り組むことが必要であるため、京都市の各界・各層のご協力をいただきながら京都の英知を結集し、事業の企画、準備及び実施の主体となる組織として、第26回国民文化祭京都市実行委員会を設立するものです。

<取組方針>

(1) 日本文化の神髄の発信

- ◎ 寺社・仏閣や京町家をはじめ、伝統産業・京料理・京菓子など「ほんまもん」の京都の魅力が発信できるよう、こうした文化資源を国民文化祭で紹介する。
- ◎ 文化芸術や伝統産業に携わる人・技にも焦点を当て、その担い手に「語り部」として、「京都」の、「京都の伝統」の魅力を語ってもらう。

(2) 次代への文化の継承

- ◎ 若い世代を中心に、伝統文化・芸能をはじめ、幅広く文化芸術に親しみ関心を持ってもらえる契機とするとともに、日本文化に関心を持つ子どもや外国人留学生にも参加の機会を提供する。
- ◎ 「大学のまち・京都」、「芸術系大学が多い京都」の特性を活かし、学生同士や学生と市民が交流できる場を設ける。

(3) 幅広い京都の魅力の発信

- ◎ 全国から京都に一堂に会するこの機会に、世界文化遺産をはじめ、景観保全や環境問題に対する施策など、京都市の多様な取組を広く発信する。

平成21年5月14日